2020 年 4 月

留学報告書

2015 年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生
田口　厚志

今回の報告書の執筆時点（4/2/20）では新型コロナウイルスの感染拡大が米国、欧州を中心として続いていて、研究にも大きな影響が出ています。ボストンがあるマサチューセッツ州も自宅待機が推奨されていて、生活を維持する上で必要不可欠なビジネス（スーパー、薬局など）以外は自粛を求められている状況です。僕も生活に必要な物資の購入と散歩以外で外に出ることはありません。他者との物理的な距離を保つ「ソーシャルディスタンシング(social distancing)」は少なくとも自分の近所では実践されていて、レジ待ちの際も間隔を空けて並んだり散歩中にすれ違う時もなるべく距離を保つ努力がされています。この状況がどれほど続くのか分からないのが辛いところですが、感染がこれ以上広がらないように自分ができることをしっかり続けていきたいと思っています。

昨年から複数のテーマに取り組んでいて興味深いデータは出てきているのですが、どれも論文にまとめるにはあと一息という状況です。なかなか自分の思うように成果が出てこないのがもどかしいですが、こればかりは地道に実験を続けていくしかありません。。。と思っていたら実験室がコロナの影響で閉鎖されてしまいました。ハーバード大学の対応は他大学に比べてかなり早い印象で、アメリカでの感染がまだ本格化していなかった 3 月上旬の段階で授業のオンライン化、コロナウイルス以外の研究活動の休止・大幅な縮小が決定されました。結果的に実験はできなくなってしまったので、現在は余った時間を博士論文やフェローシップ申請書の執筆作業にあてています。テレワーク開始当初は自宅に籠もれば書き物も普段の数倍できるはず！などという期待をしていたのですが、集中してテレワークすることは自分が思った以上に大変だと気付きました（特に〆切がない場合）。非日常だと割り切って効率的に仕事をすることを諦めた方が精神衛生的にも良いのかもしれません。

今年はローテーションの学生を 2 名指導する機会がありました。最初の学生さんは生化学のテーマを希望していたのであまり苦労せずに指導できたのですが、二人目の学生さんは化学系のテーマを希望したので指導する側も勉強することが多かったです。自主的に研究を進めるとついつい自分があまり経験・知識のない分野を避けようとしてしまうので、責任を持ってそういった分野に向き合える機会が得られた点でよかったです。今月は少しお手伝いした共著の論文が一報発表されました。構造生物学に興味がある方にとっては面白いかもしれません。

Sjodt, M., Rohs, P.D.A., Gilman, M.S.A., Erlandson, S.C., Zheng. S., Green, A.G., Brock, K.P., **Taguchi, A.**, Kahne, D., Walker, S., Marks, D.S., Rudner, D.Z., Bernhardt, T.G. & Kruse, A.C. (2020). Structural coordination of polymerization and crosslinking by a SEDS-bPBP peptidoglycan synthase complex. *Nat. Microbiol.* doi:10.1038/s41564-020-0687-z

いつもの旅行仲間と3月に南米パタゴニアに行ってきました